

第2章 地区別計画

● 「地区別計画」の推進について

(1) 地区別計画推進委員会について

地区別計画に掲げられた各目標の実現を目指して、各地区に「**地区別計画推進委員会**」を立ち上げました。

委員は、連合自治会、地区社協、民生委員・児童委員、保健活動推進員、地域の活動団体の代表者などが務め、地区の実状に合わせて委員会を組織していただいています。

既に地域では、自治会活動を中心にさまざまな活動が行われています。担い手の確保や世代間の連携などの共通課題を解決しながら、まずは地域活動の継続、そして新たな目標に向けた活動の発展や拡大、団体間の連携などが求められています。委員会では、そうした地域課題の解決に向けた取組を行うとともに、地域福祉保健の推進に係る各種の情報の共有や意見交換を行い、地区別計画の目標に向けた地域の取組の推進状況の把握や振り返りを行います。委員会は、各地区の実情に応じて2回から10回開催されました。

また、より多くの地域の皆さまに、委員会で話し合われた内容をご覧いただくため、「**地区別計画推進委員会通信**」を各地区2回程度発行し、連合自治会のご協力のもと、地区内での班回覧等を随時行いました。

(2) 地区支援チームについて

緑区では、区役所の運営責任職、保健師や社会福祉職、区社協職員、地域ケアプラザの所長、地域活動交流事業コーディネーター、地域包括支援センター職員（社会福祉士、主任ケアマネジャー、保健師等）で構成される「**地区支援チーム**」を地区ごとに立ち上げました。

地区支援チームは、地区別計画における地域の取組を、地域住民が主体となって推進していけるよう、地区支援チーム会議を定期的で開催し、日常業務の中で把握した地域の情報や、地域展開している事業の情報、そこから分析した地域の課題を共有します。また、地区別計画推進委員会においては、地域情報や地区の課題に対する解決策や取組について検討し、地域に提案を行います。

(3) 地区別計画推進委員会連絡会の開催

地区別計画推進委員会の委員長、地区支援チームのチームリーダーなどが参加する「**地区別計画推進委員会連絡会**」を4月と10月に開催しました。地区別計画推進委員会の開催状況や今後のスケジュールの説明、各地区の取組内容などの情報交換などを行いました。

(4) 地区別計画推進状況活動報告

地区別計画推進委員会では、地区別計画の目標に向けた地域の本年度の取組状況を振り返るとともに、各地区の推進状況をまとめた「**パネル**」を制作しました。また、平成24年2月に開催した「社会福祉大会第2部」では、東本郷地区と白山地区の代表者から取組状況の報告を行いました。（→P79参照）

(5) 地区別計画推進に向けた各種制度の活用

地区別計画推進に向け、区役所・区社会福祉協議会等による事業費補助制度の活用を促進しました。「緑区地域課題チャレンジ提案事業」では、今年度が第2期計画の推進初年度であったため、スタートアップコースに準じた「みどりのわ・ささえ愛プラン枠」を臨時設置し、6地区から申請・採択されました。また、区社会福祉協議会では第2期計画の推進を目指して「新規事業立ち上げ助成金」を新設し、1地区から申請・採択されました。そのほかにも健康福祉局の「地域のセーフティネット推進モデル事業」に4地区が申請・採択されるなど、各地域の取組に応じて、各種制度を積極的に活用しています。

●平成23年度 地区別計画推進状況

＜平成23年度 地区別計画推進委員会 開催状況＞

地区名	委員数	回数	開催日	委員会での検討概要
東本郷	30人	4	6/4、7/11、 9/28、1/16	<ul style="list-style-type: none"> ◆今年度の重点取組として、世代間交流等を目的とした「東本郷郷まつり」を11/6に開催した。出演者・スタッフ含め約1400人が参加し、中学生ボランティアも多数参加した。 ◆その他の目標についても、進捗を確認しながら情報共有を図った。
鴨居	24人	3	7/1、10/29、 1/21	<ul style="list-style-type: none"> ◆ささえあいカードについて、要援護者を含めた家族構成等を自治会の班長レベルまで把握できるようにする必要があるのではなどの意見も踏まえ、記載内容を見直すこととした。 ◆黄色いリボンによる災害時の安否確認などについても議論した。
竹山	26人	2	7/4、12/7	<ul style="list-style-type: none"> ◆ささえあいカードの情報をデータベース化し、個人情報を除いた形の防災マップを作成した ◆今後は、防災組織と地域防災拠点運営委員会が連携して、要援護者の安否確認や救援・救護の体制を具体化していく。 ◆ふれあい交流サロンの開設に向け、準備・検討を進めている。
白山	30人	10	6/25、7/24、 8/27、9/24、 10/22、11/26、 12/24、1/28、 2/25、3/24	<ul style="list-style-type: none"> ◆地区社協の拡大理事会のメンバーを拡充して推進委員会を組織。 ◆委員会を毎月開催し、目指す目標と理念の確認と各団体の活動報告を毎回行った。また、5分野の目標毎に今後の推進体制を協議した。 ◆デジタル防災無線を各自治会・民生委員に配備し、地域での防災訓練を通じた安否確認体制の構築に取り組んだ。
新治中部	29人	3	7/11、12/14、 3/2	<ul style="list-style-type: none"> ◆部会としての地域防災会議(連合自治会と4地域防災拠点)を開催。 ◆今後も中学生の防災時の役割等を学校と一緒に協議をしていく。 ◆「次世代につながるまち」に向けては、「担い手」の問題や「金環日食」に向けた取組などを中心に活発な意見交換が行われた。
三保	29人	2	7/9、12/11	<ul style="list-style-type: none"> ◆目標の一つ「地域でのつながり」を中心に現状と課題を話し合い、取組内容の振り返りを行った。 ◆課題となっている活動拠点についても継続して検討していくことが確認された。
山下	14人	2	7/7、12/12	<ul style="list-style-type: none"> ◆自治会の加入世帯は6割ぐらいのため連絡体制が整わないという課題がある。 ◆各自治会では、自治会未加入世帯への自治会案内の全戸配布、災害時における黄色いタオルでの安否確認、サロン開設など、課題解決に向けた取組を各々進めている。
新治西部	29人	3	6/28、8/10、 12/7	<ul style="list-style-type: none"> ◆各団体の活動報告とともに具体的な取組に向けた検討を行った。 ◆あいさつ運動の推進、地域イベントの周知、地域活動の継続のほか、地域と学校との関係づくりについても様々な意見が出された。
十日市場 団地	17人	3	6/28、10/18、 1/16	<ul style="list-style-type: none"> ◆「地域でのつながり」を作ることの大切さを再確認した。 ◆今後は、各団体と連携した「あいさつ運動」の推進や地域イベントの活用を通じて、災害などいざというときでもすぐにお互いが助け合えるような関係づくりに取り組むことを確認した。
霧が丘	15人	2	7/23、12/17	<ul style="list-style-type: none"> ◆今年度の取組状況や来年度に向けた課題について意見交換を行った。 ◆現在の取組を維持・継続し、できることをしっかりやっていくことが確認された。
長津田	29人	2	6/11、12/10	<ul style="list-style-type: none"> ◆目標ごとに、取組内容の話し合いや振り返りアンケートを実施。 ◆地域防災拠点連絡会の開催や「防災ささえあいカード」の活用、自治会情報の伝達など、意見交換を行うとともに、次年度の重点的な取組内容についての確認を行った。
合計	272人	36		